

■ 研究所だより

岩城 由紀子

4月より細越の後任としてやってまいりました、岩城由紀子です。以前はワーカーズコープの児童館や学童保育の現場にいましたが、出産・育休を経て協同総研での復帰となりました。

今年度は私にとって初めてがいっぱいでした。まず一つ目は仕事への復帰です。子どもが生まれてからは、子どもの世話で精いっぱい。家事と育児に追われる日々でした。パソコンに触ること、電話に対応することなど久しぶりで、出勤初日にパソコンの電源の入れ方を聞いたほどでした。しばらく仕事から離れたおかげか、働く新鮮さや楽しさを感じております。わからないこともあります。自分で考え、仲間と考え仕事を進めていくとき、会員のみなさまとやりとりするときによりがいを感じます。

二つ目はメガネをかけ始めたことです。視力0.1を切っておりますが眼鏡もコンタクトレンズもつけずに過ごしておりました。視力を矯正すればさらに目が悪くなると思いこんでおりましたが、年々視力は悪くなるばかりでした。仕事復帰に伴いパソコンを使う機会が増えたので、度入りのパソコン用メガネを購入しました。これまで

は全てがぼんやりした世界にありましたが、メガネをかけることで一つ一つがはっきりと見えてきました。新緑の季節、葉っぱの一枚一枚が風に揺られて生き生きとしている、そんな当たり前の景色を数年ぶりに見ることができました。

三つ目は子どもを保育園に預けたことです。保活という言葉があるほど保育園に入るのが難しい時代です。私の住んでいる地域は待機児童が少ないため、幸運にも家から3分の保育園に入園することができました。体調を崩して休ませることもあります。たくさん子どもたちの中で過ごす姿は、家のそれとはまた違うようで、連絡帳やお迎えの際に保育士さんから子どもの様子を聞くことが楽しみです。

新しいことが始まると不安もあります。が発見が多かった4月でした。協同の発見の誌面の中には、これまで関わってこなかった内容も多く、慣れない言葉に読むだけで精いっぱいと感じることもあります。が、研究をなさっている方々の熱意に触れることで研究そのものに興味や関心を発見していきたいと考えています。皆様どうぞよろしくお願いいたします。